

令和7年度 真住中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 真住中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	93	46	37	9.8	17.9	学校	443
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	94	58.3	48.7	49.1	41.7	46.3	6.7	7.0	12.7	13.0	8.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	103	58.6	37.2	47.0	38.5	41.9	8.6	8.9	14.4	7.2	9.2
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	42.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	95	53.9	50.3	43.4	55.1	56.4	16.2	5.4	14.0	3.6	7.4
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	8.0	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	88	107.1	99.5	109.0	85.7
10月2日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点	
												(kg)
2年 男子	学校	93	25.76	28.07	41.28	51.56	79.09	373.00	8.50	199.02	21.27	40.87
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	21.83	21.55	45.65	47.52	50.64	541.00	9.23	162.48	13.04	48.41
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 真住中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

正答率は全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回っているが、前年度より対全国比が0.02P向上している。無回答率が前年度より1.5P増加した。

出題内容ごとの前年度との対全国比においては「言語の特徴」が11.5P、「話す・聞く」で0.4P、「読む」で1.2P改善されている。

<数学>

正答率は全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回っており、前年度より対全国比が6.8P低下している。

「図形」の領域においては対全国差が-10.0から-7.0となり、若干の向上がみられた。

<理科>

平均IRTスコアにおいて全国・大阪府・大阪市平均のいずれに対しても下回った。初めてのCBTシステムによる出題であったため、慣れていない形式による実施であり戸惑いもあったと考える。

【今後に向けて】

正答率、無回答率のいずれにおいても改善の必要があり、生徒の学力向上に向けた授業改善を行う。また、家庭学習も含めて学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を育成する。

○3年生チャレンジテスト

【成果と課題】

いずれの教科においても正答率は府平均を下回った。

<国語>設問別集計結果において「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる」については3問中2問で大阪府の正答率を上回った。

<社会>評価の観点別「思考・判断・表現」において大阪府平均点を1P上回った。

<数学>学習指導要領の内容別平均点の「図形」が弱い。設問別集計結果では33問中6問で大阪府の正答率を上回った。

<理科>学習指導要領の内容別平均点の「生命」が大阪府と比較して弱い。また、同一母集団おける無回答率の昨年度との比較では、他教科に比べてやや上昇した割合が高かった。

<英語>学習指導要領の内容別平均点の「書くこと」が大阪府と比較して弱い。評価の観点別平均点において「知識・技能」はほぼ同等となった。

【今後に向けて】

正答率、無回答率のいずれにおいても前年度より改善している。正答率は全教科の同一母集団における対府比が2年時より0.01P向上した。教科にみると、数学・理科が0.04P、英語が0.03P向上している。国語は同等、社会科で0.04P低下した。

さらなる生徒の学力向上に向けて各教科で授業改善を行うとともに、家庭学習も含めて学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を育成する。

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果と課題】

各技能とも市平均よりスコアが下回っているが、前年度よりリーディングが9.3P、リスニングで0.9P向上した。

【今後に向けて】

CEFRA1レベル相当以上の生徒の割合が大阪市平均に近づいていくよう、今後の日々の授業においても各技能をいっそう向上させる指導の充実を継続して行う必要がある。また、教員のさらなる指導力および英語力の向上を図るため積極的に研修に取り組む。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【成果と課題】

男子の上半身起し・立ち幅とび・ハンドボール投げ、女子の反復横とび・ハンドボール投げ、体力合計点において大阪市・全国平均を上回った。運動習慣の定着と体力向上を目指すために食育についても重視する必要がある。

【今後に向けて】

日常的に散り組ませている体づくり運動の意義や目的をより明確にする工夫を行うことで、生徒の理解と実践の充実を図る。また、生徒が授業を楽しむという指向性を生かし、個に応じた配慮をしつつ運動量を確保する。授業に前向きに取り組む生徒も多いので、種目の選択や授業改善により運動能力の向上を図っていく。

○1・2年生チャレンジテスト

【成果と課題】

・1年生のチャレンジテスト、チャレンジテストplusではいずれの教科も大阪府(市)平均点より13.3～7.9P下回った。平均無回答率はいずれの教科も府(市)平均無回答率を2.4～6.2上回った。

・2年生のチャレンジテストではいずれの教科も大阪府平均点を5.9～9.9P下回った。また、平均無回答率はいずれの教科も府平均無回答率を1.3～2.7P上回る結果となった。

【今後に向けて】

授業規律が確保されている現状を継続するとともに、学習内容の基礎・基本の定着を日々の授業で図るとともに、教員のさらなる指導力の向上にも努めていく。また、生徒自身が日々の授業において自ら学ぼうとする意欲を高めるとともに家庭学習の定着に向けた取組をすすめる。